

こじきでん

#15 古事記傳

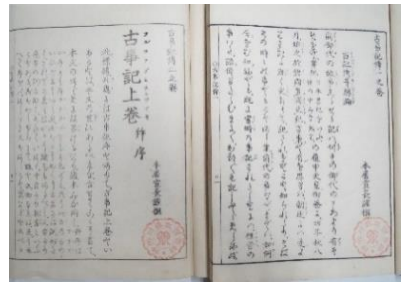
作者：本居宣長（もとおり・のりなが 1730-1801）

刊行：寛政2年（1790） - 文政5年（1822）

📖 解題

■ 内容

『古事記傳』は全44巻からなる古事記全編の注釈書。当時の古事記の写本を相互に校合し、諸写本の異同を厳密に校訂した上で本文を構築する書誌学的手法により執筆されている。さらに古語の訓を附しその後に詳細な注釈を加えるという構成になっている。



[210. 3/38]

明和元年（1764）に起稿し、寛政10年（1798）に脱稿。版本としては寛政2年（1790）から宣長没後の文政5年（1822）にかけて刊行された。宣長生前の刊行は上巻の巻17までで、残りは血縁者や門弟の助力によって享和元年（1801）より21年かけて刊行された。

宣長自筆の稿本は草稿（初稿）本、巻17（版本18巻）-44の27巻22冊、再稿本全44冊が本居宣長記念館と天理図書館に現存する。国立国会図書館でも自筆の巻1、巻2の最終稿本と考えられる本を所蔵している。

当館所蔵資料は『古事記傳』44巻及び17巻附巻『三大孝』と『古事記傳目録』上中下の全47冊12帙。刊記に「天保十五年甲辰九月再校 尾州名古屋本町通七丁目 永樂屋東四郎 江戸日本橋通本銀町二丁目 同出店」とあり、44巻巻末に「發行書肆」として「京都御幸町通姉小路上ル 菱屋孫兵衛」他12件の記載がある。その裏丁には「長埜縣菅下弘通口 御用書物師 西澤喜太郎」の印がある。『古事記傳目録』下巻巻末には「文化五年辰正月 鈴之屋

藏板」とある。

■ 作者

作者は本居宣長。江戸時代中期の国学者。伊勢松坂の木綿商の家に生まれ23歳の時医学修行のため京都に赴き、28歳で松坂に帰り医者を開業する。京都滞在中古事記や日本書紀を読み、その後賀茂真淵の論考に出会い影響を受け日本の古道を学び始める。医業の傍ら自宅で古典講釈を開講する。

宝暦13年(1763)に松坂で賀茂真淵より直接教えを受け翌年真淵の門人となる。この頃より本格的に古事記の研究に着手し、35年かけて『古事記伝』を成立させた。

著作は生涯を通じ約九十種二百数十巻に及ぶ。『源氏物語玉の小櫛』『玉勝間』などが知られる。



本文を読む

<翻刻>

『校訂古事記傳』全7巻 本居豊穎校訂 吉川弘文館 1921 [210.3/4]

「古事記伝」(『本居宣長全集 増補版』1-4巻 本居豊穎校訂 吉川弘文館 1937) [918.5/14/1] - [918.5/14/4]

『古事記伝』全4巻 倉野憲司校訂 岩波書店 1940<岩波文庫> [イ 210/㊦]

「古事記伝」(『本居宣長全集 9-12巻』大野晋・大久保正編 筑摩書房 1968-1974) [121.2/28/9] - [121.2/28/12]



参考文献

『本居宣長『古事記伝』を読む』1-4巻 神野志隆光著 講談社 2010

<講談社選書メチエ> [913.2/53]

『越境する古事記伝』山下久夫・斎藤英喜編 森話社 2012 [913.2/60]

板東洋介「本居宣長『古事記伝』」(『岩波講座日本の思想』第4巻 苅部直編 岩波書店 2013) [121.08/3/4]